

私も 広大です

広島に暮らす人たちが 家族のようにつながりたい

RCCは、放送局であると同時に多様なコンテンツを制作する企業でもあります。放送局として生活に必要な情報を地域に伝えるとともに、総合メディアアプリ「RAW」やカーブの公式アプリ「カーチカチ！」などアプリ開発にも力を入れています。時代の変化に応じた情報発信とともに、人々の日常を豊かにするリアルなイベントも積極的にやりたいと考えています。現在はコロナ禍のため人と人が触れ合うイベントの開催が難しい状況ですが、感染対策をしながら実施する方向を模索しています。特に2022年はRCCが開局70周年を迎える記念すべき年であり、現在さまざまなプロジェクトが進行中です。

私が地元の放送局に入社したのは、「地域の活性化に関わりたい」という思いがあったから。私自身がテレビやラジオが好きだったので、電波を通じて地域に貢献することに憧れを持っていました。その思いは、現在のRCCのスローガン「広島家族。」にもつながっています。多様なコンテンツを通して広島に暮らす人たちの気持ちに寄り添い、人と人とのつながりを強め、地域全体のQOL(生活の質)の向上に寄与していきたいと思っています。

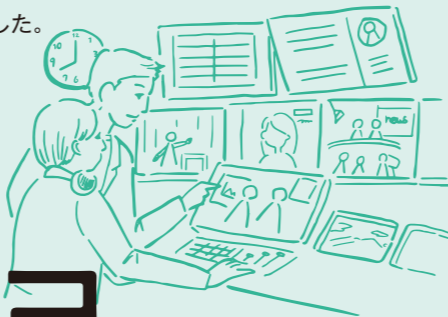
大学時代のつながりが 今の仕事を後押し

学生時代は勉強もサークル活動もあまり熱心ではありませんでした。ただ、学内外でいろいろな方と交流し、会話する中で、「意見を聞く力」が培われたと感じています。当時の人脈は、今でも役立っています。広島大学出身であることは大きな強みの一つ。取引先企業と「広島大学」がきっかけで意気投合する機会も数多くあります。

自社番組で広島大学取材させていただくこともありますが、最近は学内外の活動を効果的に発信されている印象を強く持っています。新型コロナウイルス関連の研究にも力を入れておられるので、メディアとしても注目しています。

広島大学には、学問に集中して取り組める良い環境が整っています。先輩の皆さんには、その環境でしっかりと知識を蓄えつつ、在学中に出会う友人や先生など、多様な人と交流を深めていただきたいです。大学での学びや経験を携えて社会に出れば、きっと自信を持って活躍できる人材になれると思います。

広島大学を卒業・修了後、
各業界で活躍されているOB・OGの方々に、
現在のお仕事と大学時代を語っていただきました。



工学部 出身

宮迫良己 さん

株式会社中国放送 (RCC BROADCASTING CO.,LTD.) 代表取締役社長

みやさこ・よしみ / 広島大学工学部
1982年卒業。株式会社中国放送入社、カメラマンとしてスタート。東京支社、テレビ編成制作部長、コンテンツビジネス局長、取締役テレビ局長、常務、専務などを経て2020年6月に代表取締役社長に就任。

▼ 本学工学部卒業生のアンガールズ・田中卓志さんもRCCの番組に出演中。



しんたく・いくこ / 広島大学教育学部1987年卒業。広島県庁に入庁し、教育委員会や商工労働局、健康福祉局などで勤務、働き方改革推進・働く女性応援課長、子供未来応援部長を経て、2020年4月に環境県民局長に就任。

県民との意見交換を通じ 目指す姿の実現に向けて

多くの人のためになり、長く続けられる仕事に就きたいと思い、広島県庁に入庁しました。これまで、企業立地、がん対策、経営企画などさまざまな部署を経験しました。幅広い分野の多くの方々と出会い、話を聞いてきたことは、私の財産です。

環境県民局長は、私学・高等教育、文化や消費生活、環境など生活と密接に関わる領域を担当しています。

政策を立案する中で意識しているのは、目的を明確にすること、「机の上」で考えないこと、「県全体として」何をすべきかを考えること。県民の皆さんとしっかり意見交換して現状や課題を把握・分析し、社会経済情勢の変化も踏まえながら、将来目指す姿とのギャップを埋めていくための戦略を立て、多くの方々と共に実行しています。例えば、海洋プラスチックごみ問題では、地域と連携し海岸を清掃したり、素材メーカーや小売事業者の皆さんと協力して代替材の開発や自動販売機周辺の空容器回収ボックスへの異物混入対策に取り組んだりと多方面からのアプローチが必要です。

県では、広島大学の先生方に専門家として審議会の委員をお願いするなど、ご協力いただくことも多く、卒業後もいろいろな場面で広島大学にお世話になっています。今、県内の高等教育機関の魅力づくりの取り組みを進めていますが、ここでも広島大学にはその中核を担っていただいています。引き続き、よろしくお願ひします。

県庁の女性管理職は13% 社会の意識改革に取り組む

局長として仕事をする上では、職員が企画提案しやすい環境づくりを心掛けています。きちんとコミュニケーションを取って人間関係を築く力は、学生時代の実習や音楽サークルでさまざまな学部の友人や外部の方々と関わった経験から培われたのかもしれない。

県庁の女性管理職の割合は約13%。まだ多いとは言えませんが、目標を立てて取り組んでおり、次を担う監督職は約20%と着実に増加しています。男女共同参画を担当する局として、誰もが性別に関わりなく仕事でも生活でも自分らしい選択ができるよう社会の意識を変えていきたいと考えています。特に、社内にロールモデルが見当たらず管理職のハードルを高く感じている女性には、私自身の経験から「リーダーにもいろいろな形がある、気負わずチーム全体で頑張ればよい」と伝えたいですね。

広島大学には、多様な能力や個性を持つ約15,000人の学生が集まっています。学生の皆さんには、貴重な環境の中でさまざまな経験をしてほしいです。社会に出ると、一人で何かを成し遂げるより、他者と協力してプロジェクトを進める機会が多くなります。興味のあることはもちろん、今まで興味がなかったことにも関心を広げられれば、より多くの人々と協力して広島を、そして世界を良くしていけるのではないのでしょうか。

教育学部 出身

新宅郁子 さん

広島県 環境県民局長

